

東海ブロックボランティアセミナー実施報告

1 期 日 平成14年11月23日(土)

2 会 場 静岡県立袋井養護学校

3 日 程

9:30~10:00 受付

10:00~10:10 事前説明
(1) あいさつ (2) 講師紹介 (3) 日程説明

10:10~12:00 『わくわく土曜サロン』の活動参観

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~14:00 ボランティアセミナー協議会の全体会
(1) あいさつ
(2) 『ボランティア養成講座』及び『わくわく土曜サロン』の取り組みについて
(3) 質疑

14:00~14:15 休憩・移動

14:15~15:30 ボランティアセミナー協議会の分科会
第1分科会「ボランティアの育成とその活用」
第2分科会「地域活動の取り組み」

4 参加者 242人

	PTA	教職員	講 師	運営委員	ボランティ	児童生徒	合 計	
愛知	2						2	40
岐阜	5	2					7	
三重		1					1	
静岡	17	13					30	
本校	55	31	4	4	47	61	202	
合計	79	47	4	4	47	61	242	

5 『わくわく土曜サロン』の活動参観

ボランティアと教職員が運営している13のコーナーを、児童生徒がボランティア・保護者と一緒に回って活動している様子を参観してもらいました。

お皿に絵付けをしよう
絵本・エプロンシアター・折り紙
和太鼓を体験しよう
パソコンで絵を描こう
ハンカチを染めよう

クッキーを作ろう
リトミック
フォークダンス
日本茶の楽しさを体験しよう
茶道体験入門

モノプリント体験
フライングディスク
歌 お う

6 ボランティアセミナー協議会の全体会

(1) 報告『ボランティア養成講座』及び『わくわく土曜サロン』の取り組みについて

『わくわく土曜サロン』実行委員長（PTA顧問） 酒井 雅子
前ボランティア養成講座実行委員事務局長 山崎美穂子

平成11年度『ボランティア養成講座』スタート

当時の校長先生からPTA役員に「ボランティア養成講座というのをやってみないか」との話があり、どういものかイメージが沸きませんでした。夏休みに子供たちをどこかに連れて行ってくれるのなら・・・と軽い気持ちで受けました。

ボランティア養成講座の参加者を募るため、まず校長会で各高校に募集案内を配布してもらいましたが、なかなか集まりませんでした。そこで、保護者が近所の方々に声を掛けたりして、結局60人の参加を得てスタートしました。

講座は8月から12月に5回開催。最初は先生方中心に計画してもらい、第1回はオリエンテーションとして趣旨説明や心身障害児と教育についての講話を行いました。保護者は子供がプールで泳いでいる間に、人形劇の人形作りなどをして準備を進めていきました。第2回は子供たちと一緒に記念品作りと「おとの部屋」「おはなしの部屋」などの部屋めぐりを、第3回は掛川市生涯学習センターと豊田町福祉センターで、「スポーツ」と「芸術の秋」を開催するなど、地域での活動を行いました。

最後に、多くの受講生が「自分のためになり良かった。これからも自分のできる方法で自然に手を差し伸べたい。」との思いを抱いてくれたことが、何よりの成果でした。

平成12年度の『ボランティア養成講座』

2年目で見通しがついており、ボランティアの方を集める方法として、PTA役員が各市町村の広報誌に載せてもらうようお願いに行きました。92の方が参加して下さることになり、ただ講座を開催するだけでなく「初級青少年指導者認定証」の発行についても県教育委員会と話し合い、6回開催することになりました。

主な活動として、第3回は本校には保護者が主体的に作っているサークルがあり、受講生の方に自分が参加したいところを選んでもらいました。サークル責任者（保護者）が会を進め、参加する保護者が自分の子供との接し方について受講生に教えていくやり方です。どの会場にも、子供たちと受講生が自然に触れ合い、その様子を見守る保護者の温かい目がありました。

第4回は、掛川・袋井・磐田と地区に分かれて秋を楽しむ活動を行いました。PTA副会長3人は3地区から選んでおり、副会長と保護者が企画・運営しました。

平成13年度の『ボランティア養成講座』

全知P連からの助成金はありません。運営委員会を開き、昨年度の反省とともに平成13年度はどのようにしていくか討議しました。継続するか、資金はどうするのか、どのように実施していくのか、結論はでませんでした。保護者の協力がなければ出来ないことであり、平成13年度のPTA組織が固まり、PTA運営委員会で検討していくことになりました。その結果、PTA主催として実施していく、受講生には保険料や事務費の

一部を負担してもらい、会場使用料や通信運搬費・雑費等はPTAより援助する等決定し、継続して行っていくこととしました。広報誌で募集の結果、98人の受講生が集まり、7回の講座を開催しました。

第2回の活動では、保護者のつくるサークルと共に活動することにしました。『コンパスの会』は「エアロビやフォークダンス」、『萌木の会』は「ミニ運動会」、『ほうほう』は「ペンダント作りやフルーチェ作り」「KONAMI」は「ちぎり絵で花火作り」、『はまぼうクラブ』は「ボウリング大会」、中学部有志は「キャンプ場での川遊び」を計画し、受講生はそれぞれの場所に出掛けて行き、子供たちと出会い、語り掛け、触れ合い、共に遊びました。

第3回の活動では、受講生の地区代表の方に企画してもらいました。磐田地区はペットボトルで楽器を作り、みんなで演奏しました。袋井地区はフライングディスクや大玉ころがし、ボウリングを、掛川地区は高校生の企画でじゃんけんリレーなどのゲームを楽しみました。

第5回の活動では、東海道400年祭の一環として、袋井駅周辺を江戸の町民になって歩いたり、宿場の和太鼓との共演を楽しみにしていましたが、あいにくの雨で参加できませんでした。学校の体育館で歌やゲームをやりましたが、心の通い合う楽しいひとときとなりました。

来年度から完全学校週5日制となり、ここで学んだことを生かして袋井養護学校の子供たちを支援する新たな活動を始めたいという意見が多く寄せられ、『わくわく土曜サロン』という地域活動を行っていくことになりました。

平成14年度『わくわく土曜サロン』スタート

PTAと養成講座修了生、学校の共催として、主に奇数月の第4土曜日に8回行うことになりました。児童生徒の参加者を募ったら96人となり、小・中学部生グループと中・高等部生グループに分けて活動しています。本校の子供たちの他、学区の小・中学校養護学級の児童生徒たちも参加しています。その概要は次のとおりです。

組 織

委員長	PTA顧問(前PTA会長)	顧 問	校 長
副委員長	PTA会長、養成講座修了生1人、副校長		
運営委員	PTA副会長3人、養成講座修了生3人、教頭、中・高等部主事		
事務局	小学部主事、教務課長、事務長		
ボランティア	平成12・13年度養成講座修了生		
協力スタッフ	PTA会計・監査・書記、PTA学級委員、本校教職員		

参加者

	小・中学部生グループ	中・高等部生グループ
児童生徒	登録51人	登録45人
保護者	登録51人	登録42人
ボランティア	登録94人	
教職員	各回ごとに参加者を募る	

活動日・内容等

		小・中学部生グループ	中・高等部生グループ	
回	月 日(曜)	10:00~11:30	10:00~15:00	
活 動 日 等	1	5月25日(土)	ゲーム・スポーツであそぼう	愛野公園に行こう
	2	7月27日(土)	水であそぼう・バーベキュー	プールで泳ごう・バーベキュー
	3	8月31日(土)	劇団たんぼぼ観劇 (PTA主催、袋井市民会館)	
	4	9月21日(土)	公園であそぼう	浜松フルーツパークに行こう
	5	11月23日(土)	遊び・作り・踊ろう (ボランティアセミナー)	
	6	1月25日(土)	おやつをつくろう	浜松科学館に行こう
	7	2月8日(土)	吉田イツコ ピアノコンサート (PTA主催、月見の里ホール)	
	8	3月22日(土)	楽器をつくろう	ボウリングで楽しもう

参加費はボランティアの方からは徴収せず、1家族1,000円の年会費を集め、保険代と通信費としています。交通費・昼食代・材料費は個人負担で、会場費等はPTA会計から支出しています。

7 ボランティアセミナー協議会の分科会

第1分科会『ボランティアの育成とその活用』

(1) 各学校の実施状況や課題について

大垣養護学校は、年5、6回ホリデースクールを開催しているが、参加者は毎回固定しており300人中50人程度。袋井養護学校では参加を保護者と同伴としているのか。

中濃養護学校は、ボランティア養成講座2年目。受講生は高校生が多く、どのような内容で行っていくか、今後どのように地域支援にかかわってもらったら良いか悩んでいる。施設に入っている生徒も多く、保護者の関心や意識も薄いのが現状である。

静岡北養護学校清水分校は、週2回、13:30~15:00に12人の学童クラブを実施。地元の新聞、社協の広報誌に募集案内したら反響が大きかった。平日に来てもらえる方は限られるが、1回来ていただくと次も来てくださる方が増えている。

安城養護学校をはじめ、愛知県は1校も実施していない。何とか立ち上げたいと意を強くしたが、まず学校に理解を得る方法はないか。

浜松養護学校は、高校生ボランティアがサポートクラブとして60人程で活動している。活動後、次回の企画について意見を聞いて進めている。

浜名養護学校は、平成12年度から2日間の日程でサマースクールを開催。ボランティアの方に登録カードでどのような子供に付きたいか聞いている。企画はPTA主体で先生方に手伝ってもらっている。ボランティアの方にも企画等に参加していただきたいが、どうしたら良いか思案中である。

(2) 袋井養護学校の取り組みに対する質疑

① 運営委員会や企画等の事前準備はどのように行っているか

運営委員会は「組織」に記載してある顧問から事務局の17人が、その活動前の平日の午前中に集まっている。活動内容によって、準備が大変なものやそうでないものがある。バーベキューなど大変なものはPTA運営委員にお願いし、ゲームやスポーツは協力してもらおう教員に依頼することもある。子供たちにどのような活動が

良いのか悩んでいる。運営委員会はボランティア代表4人の方にも出してもらっているが、企画の段階でどの様に入ってもらえるか、今後の課題と考えている。

② ボランティアの方への連絡はどのようにしているか

昨年まではFAXと電話で事務局から連絡していたが、今年は郵送でその都度通知して、FAXか電話で返事をいただく方法で確認している。

③ 児童生徒の参加数、保護者の同伴について教えてほしい

保険に加入する関係で年度当初に希望を募り、その都度「連絡袋」で通知している。今までの活動では、登録96人中、少ない時で55人、多い時は83人参加。自主通学していて事故等の心配のない生徒は本人のみの参加も可としている、小学部の子供は親子で楽しむことが大事と考えている。

④ ボランティアとして参加しておられる方の感想を聞きたい

- ・ 職場に養成講座の案内が回覧され、あまり考えないで参加した。養護学校の子供たちは、何をやるにしても一般の生徒より真剣であり、今日の染色なども良くできていた。先入観で見えてはいけない。今後も遊びに来ている感覚で参加していきたい。
- ・ 養成講座の事は地元の社協から知った。ボランティアが生きがいでなく、子供が好きでかかわっているとかわいい。主人の理解があり参加しているが、これからも自費でも続けていきたい。
- ・ 4年間参加している。自分の周辺に障害者の方がおられず、関心もなく知らないことばかりだった。「無理をしなくて良いよ。来られない時もある。」と言われ、肩の力が抜けて楽しめるようになった。子供たちと接して心が洗われる。

⑤ ボランティアの養成について、どのようにしていけば良いか。教わりたい

袋井養護学校が活動を始めてから、市町村でもボランティア養成講座を開講した。当初は手話や点字が中心であったが、知的障害者支援の養成講座もスタートした。地域の養護教育センターとしての養護学校が、主体が保護者であれ教員であれ、意図的に活動を起こせばその輪が地域に広がっていく。

各地域・学校で地域活動の芽が出て、お互いに連絡を取り合いながら広がっていくことを期待している。

第2分科会『地域活動の取り組み』

(1) 各学校の放課後保育や学童保育の実施状況

清水分校は、スクールバスが早い便の日(週2, 3回)に20人が利用。PTA主体で実施し、婦人会の方や大学生が協力してくれ、地域への理解も広がってきている。

藤枝養護学校は、地域の手をつなぐ育成会でボランティアの協力を得ている。小学部低学年で立ち上げて2年目になるが、利用に差がある。焼津市では健常児の学童保育で一緒にやっている児童も一人おり、岡部町では社協で週1回と夏休みに無料で実施している。

浜名養護学校は、高等部の保護者がNPOとして送迎を含めて指導してくれている。

浜北市立養護学校は、社協で月～金に2時間、バスで学校に迎えに来ていただき公民館で5時まで。ボランティアは有料でお願いしている。

大垣養護学校をはじめ、岐阜県では実施されていない。

(2) 開設に至るまでの経過と運営方法について

掛川市中心身障害児の学童保育所『かざぐるま』について、本校PTA 萬谷英子さんが、会の発足、市議会への要望書や陳情書の提出、試行実施、開設後の活動内容等について説明を行った。

(3) 活動中の事故や防止について

考えられる対策を取っておくことは当然だが、ボランティアの方とのコミュニケーションを取り、子供の実態を把握してもらうことが大事である。A I U補償や行事保険加入も必要。

(4) 卒業後の余暇の過ごし方について

(財) 静岡県生涯学習振興財団が、休業日に各地で開催している講座の一つとして本校で実施している障害者余暇充実講座と、掛川市と袋井市の青年学級の活動の様子を紹介した。

8 これからの地域活動について (まとめ)

アンケートで各学校区の地域活動実施状況を聞きました。

東海ブロック知的障害養護学校38校中16校の参加でしたが、ボランティアと共に活動する事業をしているのは6校、放課後保育や学童保育を実施しているのは10校でした。

これらの取り組みをしている学校の課題は、①保護者の関心の薄さと参加する児童生徒の固定化 ②実施主体の明確化(企画・運営でのPTA・学校・ボランティアの役割分担) ③ボランティアの新たな確保と組織化 ④ボランティアを適材適所に配置する工夫 ⑤地域活動の中核として活動する人材の育成 ⑥必要経費の確保(PTA会費、実費徴収、公的補助金)などがあげられました。

まだ取り組みをしていない学校でも、これらの活動への関心は高く、自分の校区でも進めたいとの思いが感じられましたが、具体的にどのような手順で動き出したら良いのか、模索している様子が見られました。今回のセミナーにより、子供たちの社会自立に向けて、地域の多くの人々との関係を広げていくことの大切さが確認されました。

本校で、3年間の『ボランティア養成講座』に続き『わくわく土曜サロン』という新たな活動を展開してきました。より地域に密着した活動となるためには、学校を中心とした一斉の活動から、それぞれの地域での対応を増やしていくことが必要と感じています。卒業生の同窓会や青年学級もありますが、公的な社会教育が充実しているとは言えません。国は、障害者の施設入所中心の生活から地域で暮らせるようにする「新障害者基本計画」と「新障害者プラン」を決めました。将来にわたって地域で生活していくためには、個人をサポートしてくれるホームヘルパーやボランティアの方々が必要です。そのためには、活動の中核となって企画立案、運営を担えるボランティア等の育成が不可欠です。今の活動は、ボランティアの方に当日の活動を手伝ってもらうことが中心となっていますが、地域活動を起こして運営していくボランティアの育成に向けて、今後も努めていきたいと思っています。